

TimeTracker FX

【補足資料】

SQL Server 2008 インストール方法

2010 年 2 月

株式会社 デンソークリエイト

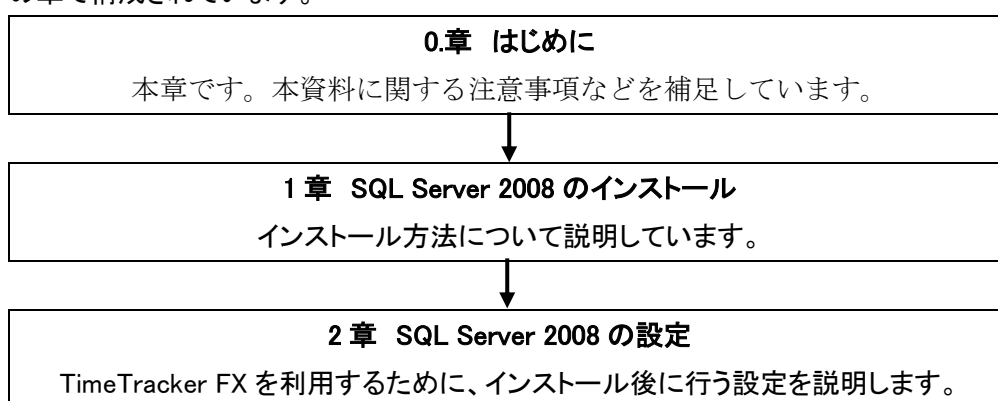
0. はじめに

本資料は、[TimeTracker FX セットアップガイド]では説明していない、Microsoft SQL Server 2008（以下 SQL Server 2008）の設定や操作方法を補足するためのものです。

SQL Server 2008 の機能や操作の詳細については、マイクロソフト社の Web サイトや市販書籍などをご覧ください。

0.1. 本資料の構成

以下の章で構成されています。




0.2. 用語の定義など


■ サーバマシン

TimeTracker FX および SQL Server 2008 をインストールするコンピュータです。


■ SQL Server 2008

データベースサーバです。本資料では、Standard Edition を想定しています。

 情報アイコン ... 補足情報や有用な情報について記載しています。

 注意アイコン ... 手順のなかで、特に注意して頂きたい部分について記載しています。

0.3. 注意事項など

 ご利用の環境によっては、本資料の手順と異なる場合がございます。予めご了承ください。

※ このドキュメントに記載している情報（URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。

※ Microsoft、Windows または、その他マイクロソフト製品の名称及び製品名は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

※ その他、記載された社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。

1. SQL Server 2008 のインストール

本章では SQL Server 2008 のインストール方法を説明します。

⚠ 本章の操作は、サーバーマシンの管理者権限をもったアカウントで操作してください。

1.1. SQL Server 2008 インストーラの起動

SQL Server 2008 のメディアをサーバーマシンにセットすると、自動でインストーラが起動します。

④ 自動で起動しない場合は、SQL Server 2008 のメディアから[setup.exe]を実行します。

1.2. .NET Framework 3.5 のインストール

最新の.NET Framework と Windows インストーラが必要です。サーバーマシンに必要なコンポーネントが不足している場合は、指示に従いインストールします。

④ インストールに必要な条件を満たしている場合は、図 1-1,1-2 の画面は表示されません。

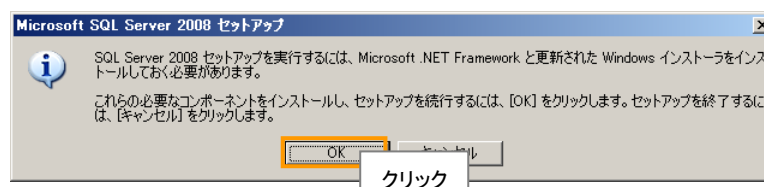


図 1-1 不足コンポーネントの検出

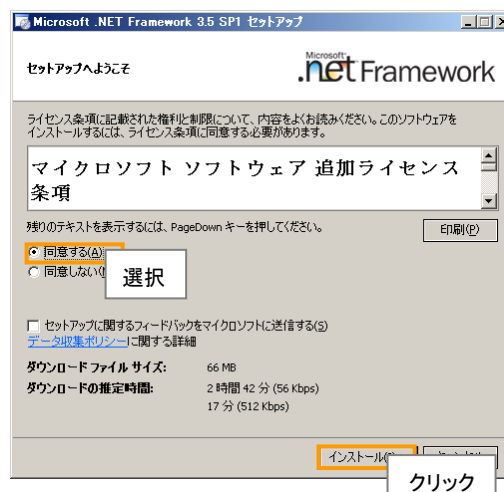


図 1-2 .NET Framework 3.5 のインストール

1.3. SQL Server 2008 の新規インストール

[SQL Server インストール センター] (図 1-3) が表示されます。

[インストール] を選択して、[SQL Server の新規スタンドアロン インストールまたは既存のインストールへの機能の追加] をクリックします。

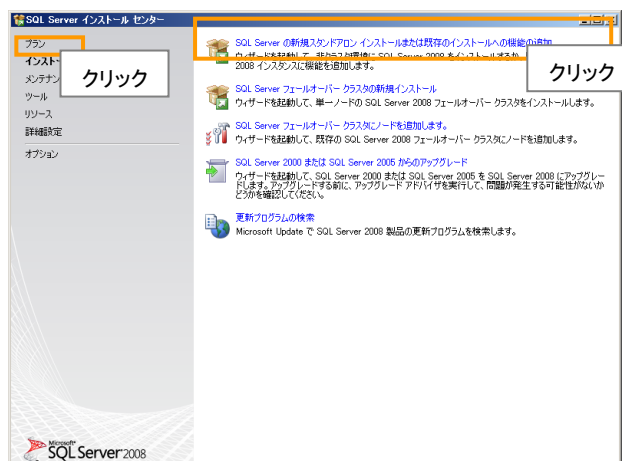


図 1-3 SQL Server インストール センター

1.4. セットアップ サポート ルールの確認

[セットアップサポートルール] が実行されます。[詳細の表示] を表示して、すべてのルールが[合格]になっていることを確認します。問題がなければ、[OK] をクリックして次へ進みます。

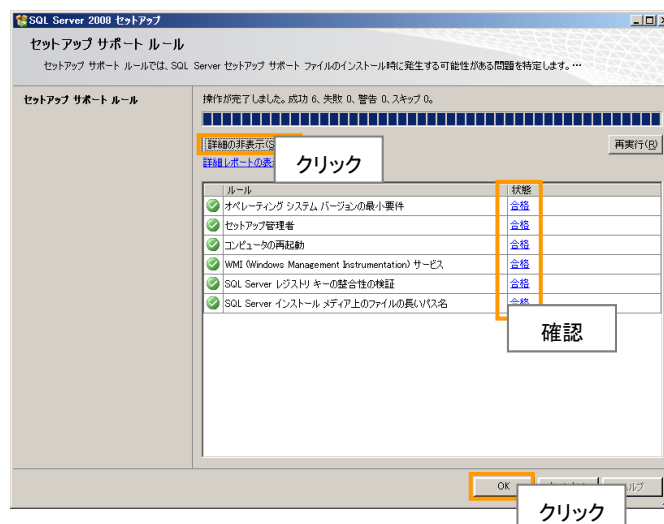


図 1-4 セットアップ サポート ルール

1.5. プロダクトキーの入力

SQL Server 2008 のプロダクトキーを入力し、[次へ]をクリックします。



図 1-5 プロダクト キー

1.6. ライセンス条項への同意

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項を読みます。

問題がなければ[使用許諾契約書に同意する]をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。

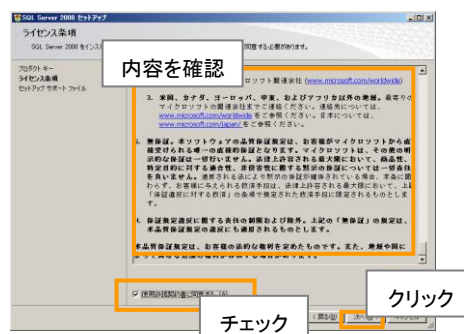


図 1-6 ライセンス条項

1.7. セットアップ サポート ファイルのインストール

[インストール]をクリックすると、セットアップサポートファイルのインストールを開始します。

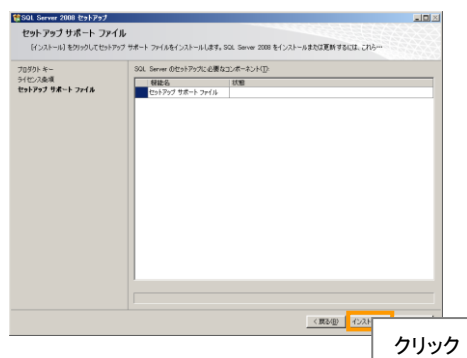


図 1-7 セットアップ サポート ファイル

1.8. セットアップ サポート ルールの確認

さらに詳細な[セットアップ サポート ルール]が実行され、詳細レポートが表示されます。

問題がなければ[次へ]ボタンをクリックします。

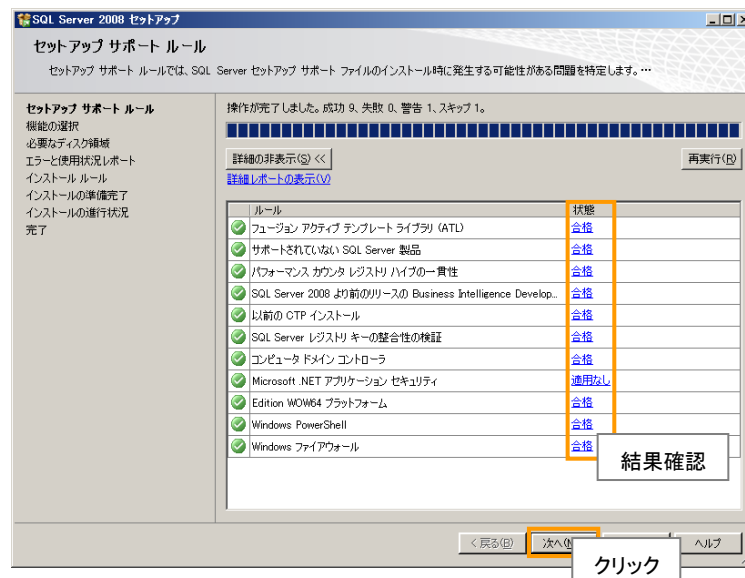


図 1-8 セットアップ サポート ルール

1.9. インストールする機能の選択

インストールする機能を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

⚠ [データベースエンジンサービス]は必須です。

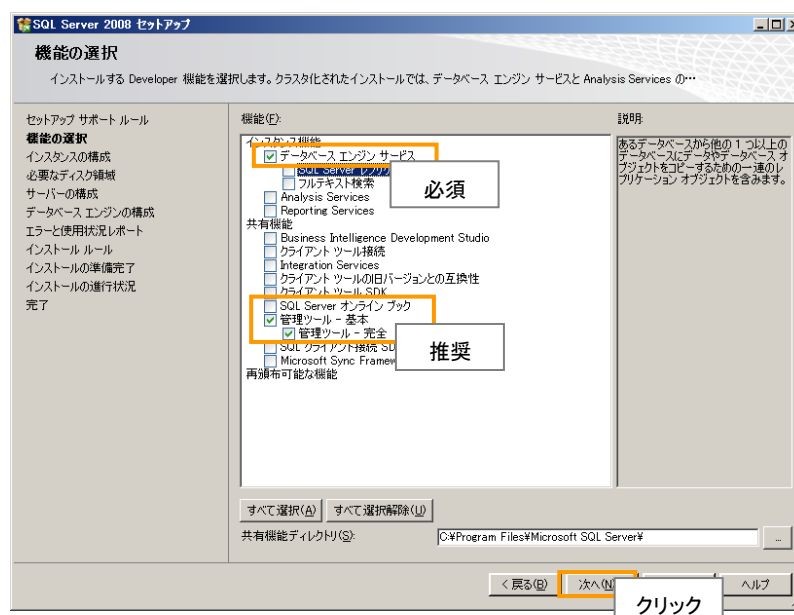


図 1-9 機能の選択

1.10. インスタンス名の設定

インスタンス名を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

- ⚠ [名前付きインスタンス]を指定した場合は、設定した値をメモなどに記録してください。
- ⚠ 設定した値により、[データベース作成ウィザード]に設定するサーバ名が異なります。
- ℹ 通常は[既定のインスタンス]で問題ありません。
- ℹ インスタンスの詳細については、[ヘルプ]をご覧ください。

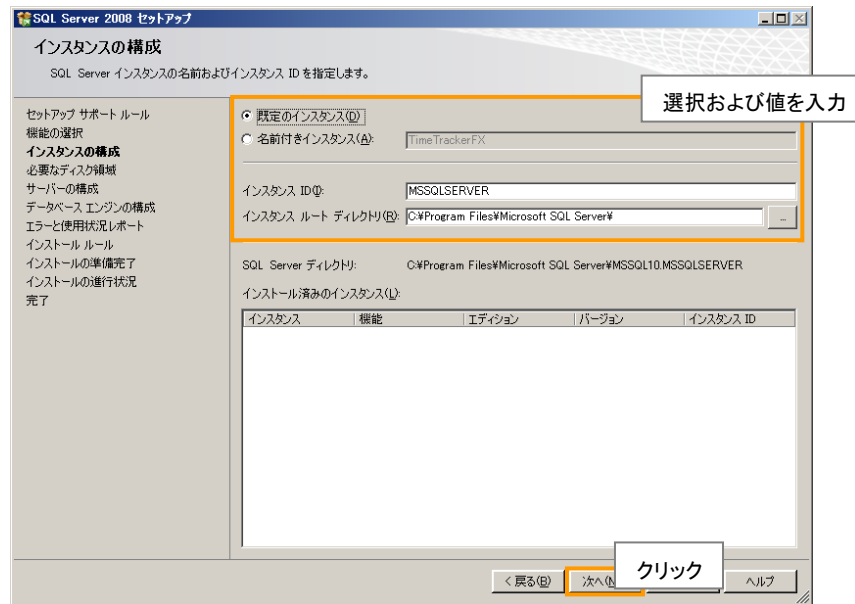


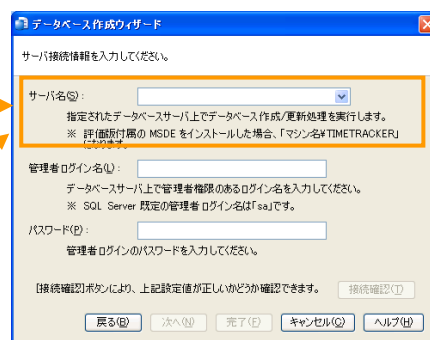
図 1-10 インスタンスの構成

- ℹ インスタンスの設定と、[データベース作成ウィザード]の設定値の関係は以下の通りです。

インスタンスの設定

[データベース作成ウィザード]

- 既定のインスタンスの場合
サーバマシン名を選択します。
- 名前付きインスタンスの場合
サーバマシン名 + ￥ + 設定したインスタンス名を選択します。



1.11. 必要なディスク領域

必要なディスク領域を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。

1.12. サーバの構成(サービスアカウントの設定)

SQL Server サービスのアカウントを設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

- TimeTracker FX で推奨する設定はありません。システム運用・管理のポリシーに従って設定してください。詳細は、[ヘルプ]をご覧ください。

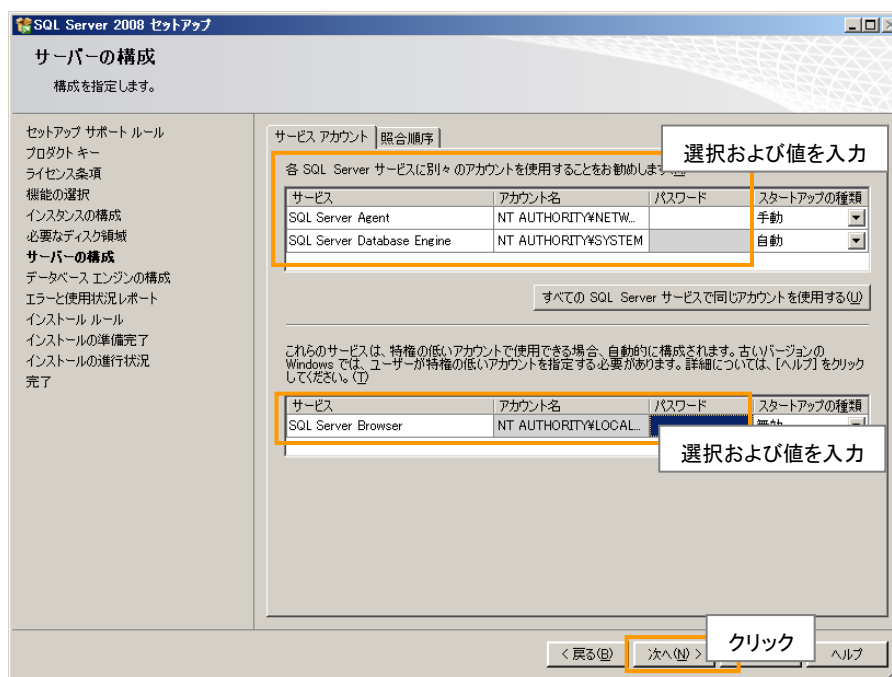


図 1-11 サービスアカウント

1.13. 認証モードの設定

以下の設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

- [認証モード]...[混合モード]を選択します。
- ビルトイン SQL Server システム管理者アカウント(sa)...パスワードを設定します。
(SQL Server 認証で利用する管理者アカウントの設定です)
- SQL Server 管理者の指定...[追加]ボタンをクリックして、アカウントを追加します。
(Windows 認証で利用する管理者アカウントの設定です)

- TimeTracker FX は、[混合モード]で動作します。[Windows 認証モード]では動作しません。
- 設定したパスワードは、TimeTracker FX のインストールなどに使用します。
- パスワードは、複雑なものを設定し、取り扱い等の管理にご注意ください。

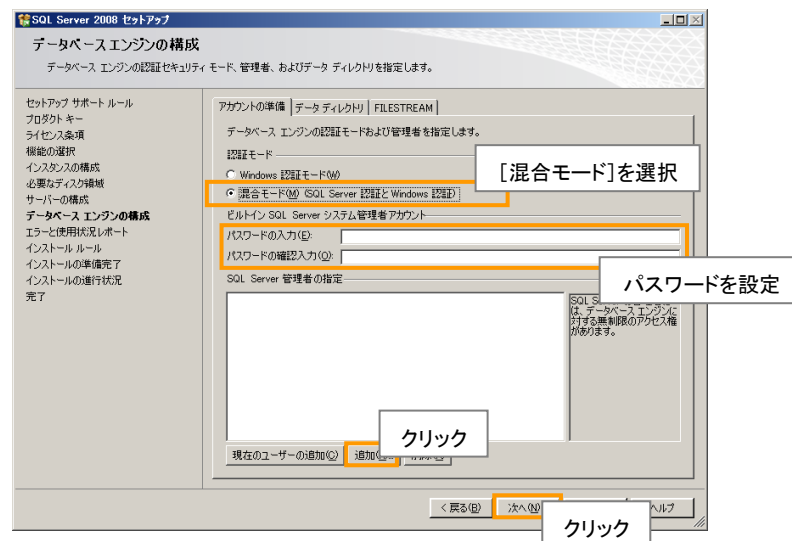


図 1-12 認証モード

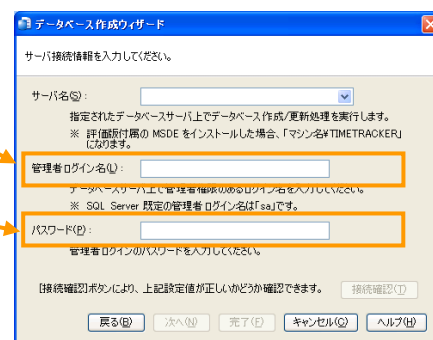
- ❗ sa のパスワードは、[データベース作成ウィザード]の以下の画面で利用します。

認証モードの設定

[データベース作成ウィザード]

- sa (管理者のログイン)

- パスワード



1.14. エラーと使用状況レポートの設定

必要に応じてチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。

- ❗ TimeTracker FX の動作には影響しません。

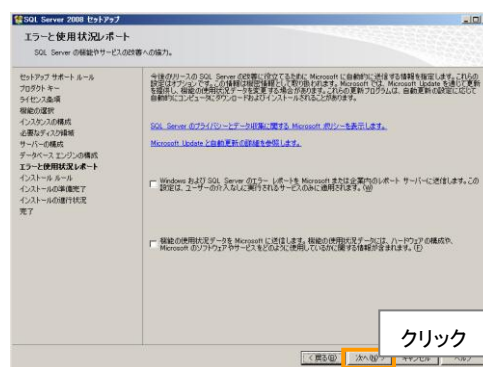


図 1-13 エラーと使用状況レポート

1.15. インストール ルールの結果確認

[インストール ルール]が実行されます。[詳細の表示]ボタンをクリックして、すべてのルールが[合格]または[適用なし]になっていることを確認します。問題がなければ、[次へ]ボタンをクリックして次へ進みます。

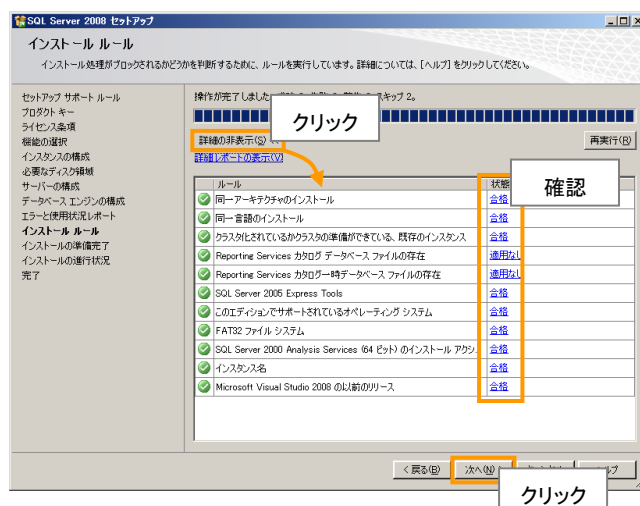


図 1-14 インストール ルール

1.16. インストール準備の完了

[インストール]ボタンをクリックすると、インストールを開始します。

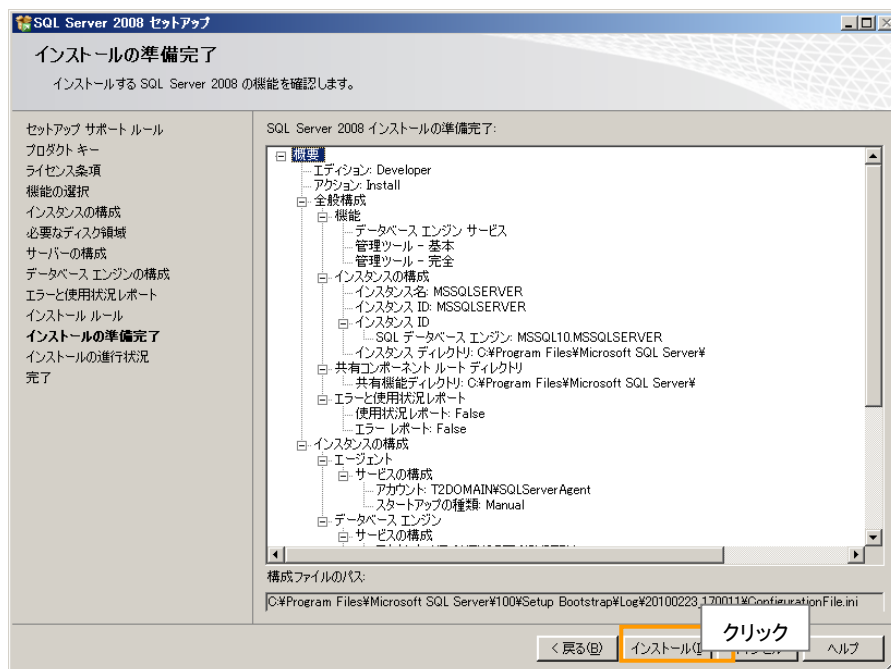


図 1-15 インストール準備の完了

1.17. インストールの進行状況

インストールを開始すると、進捗状況が表示されます。完了するまで操作は不要です。

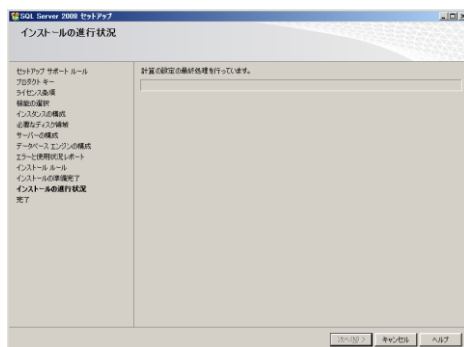


図 1-16 インストールの進行状況

1.18. セットアップの完了

[概要ログ]をクリックして、エラーや問題がないことを確認します。

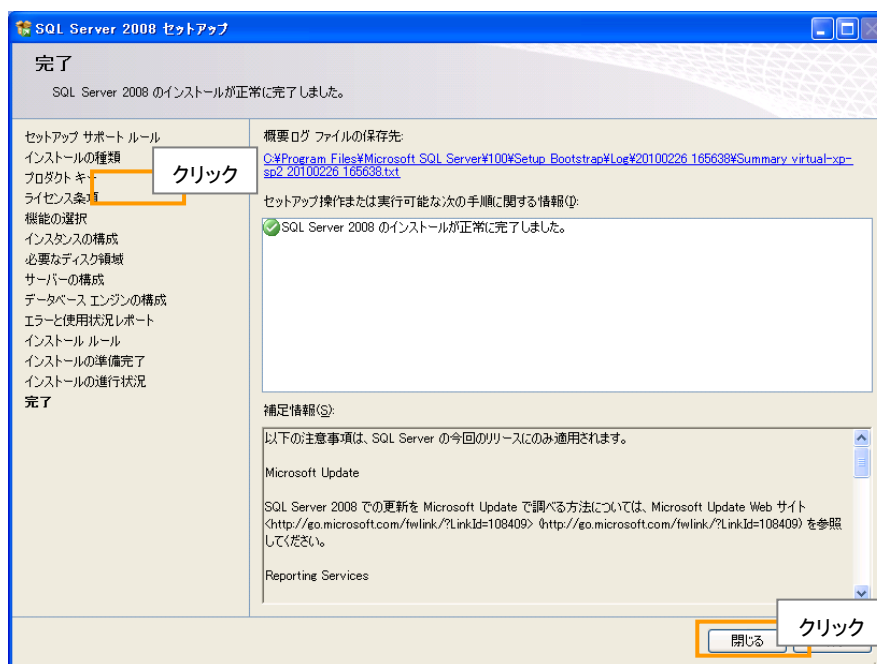


図 1-17 .セットアップの完了

概要ログに問題がなければ、[完了]ボタンをクリックしてインストールを終了します。

1.19. サーバマシンの再起動

サーバマシンの再起動をするように表示された場合は、サーバマシンを再起動してください。

2. SQL Server 2008 の設定

SQL Server 2008 は、既定の状態では外部からのアクセスが一部制限されています。

本章では、TimeTracker FX からアクセスするためのネットワークプロトコルを有効にする方法を説明します。

2.1. SQL Server 構成マネージャの起動

Windows[スタート]メニューの[(すべての)プログラム]-[Microsoft SQL Server 2008]-[構成ツール]-[SQL Server 構成マネージャ]をクリックします。

2.2. ネットワークプロトコルの確認

[SQL Server 2008 ネットワークの構成]-[MSSQLSERVER のプロトコル]をクリックします。

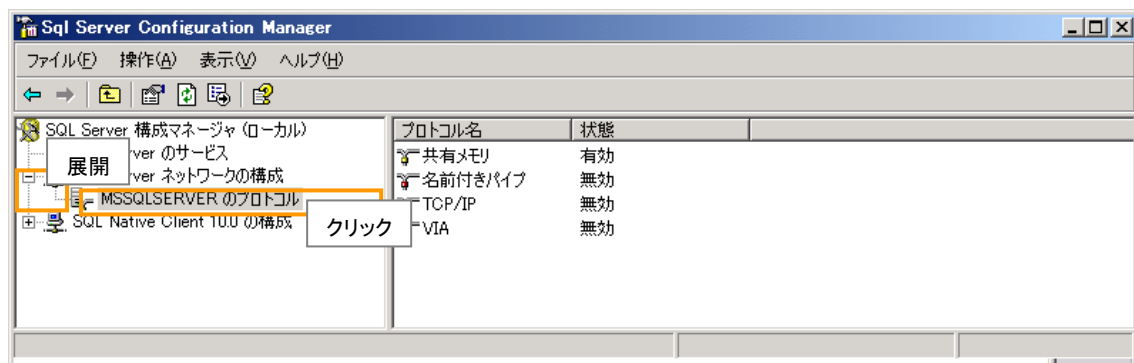


図 2-1. SQL Server 構成マネージャ

2.3. TCP/IP の有効化

TCP/IP が無効になっている場合は、TCP/IP を右クリックして[有効化]をクリックします。

- ④ TCP/IP が有効になっている場合は、本手順以降の操作は不要です。[SQL Server 構成マネージャ]を終了させてください。

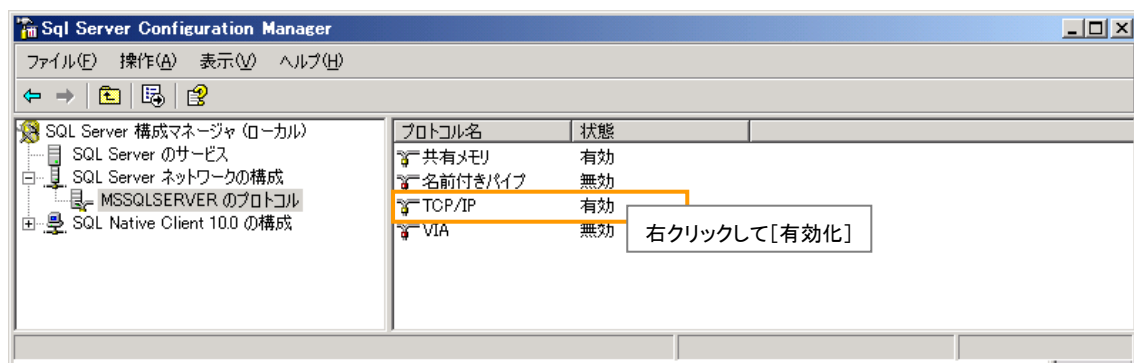


図 2-2. TCP/IP の有効化

2.4. SQL Server Browser の設定

⚠ この手順は、名前付きインスタンスを設定している場合に行います。

[SQL Server 2008 のサービス]-[SQL Server Browser]をダブルクリックします。

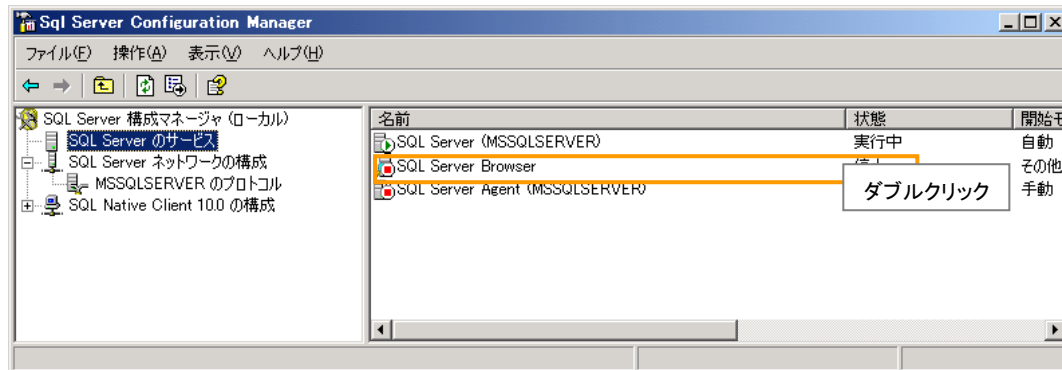


図 2-3 SQL Server Browser の設定

2.5. SQL Server Browser の開始モードの変更

[サービス]タブをクリックして、[開始モード]を[自動]に変更します。

[OK]ボタンをクリックして、[SQL Server Browser のプロパティ]を閉じます。

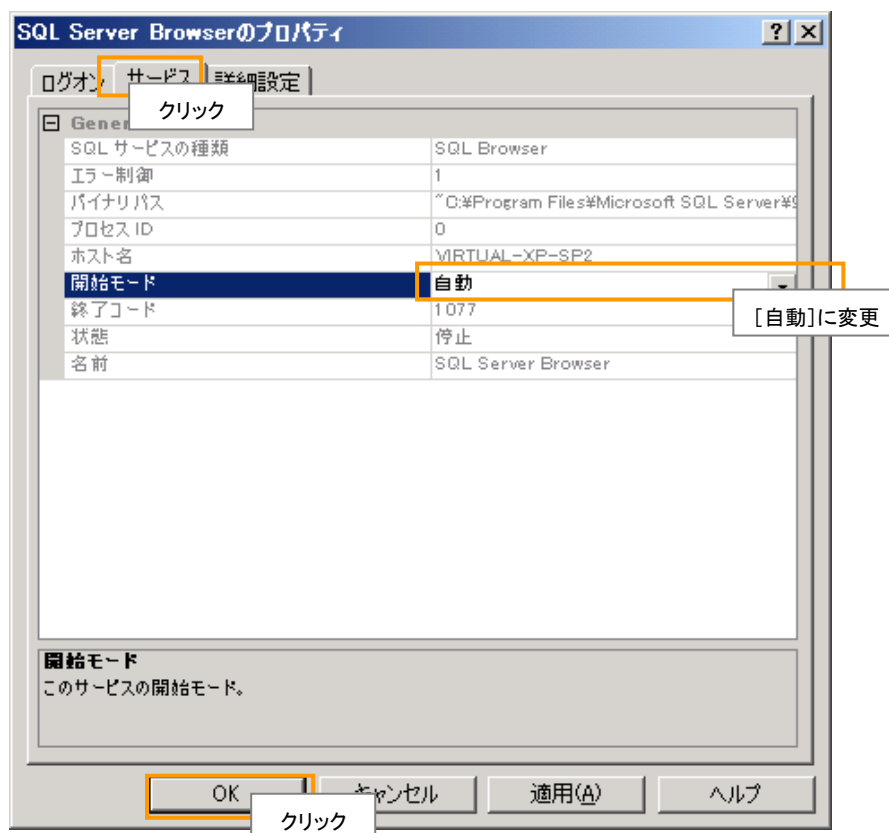


図 2-4 SQL Server Browser の開始モードの変更

2.6. SQL Server Browser の起動

[SQL Server 2008 のサービス]-[SQL Server Browser]を右クリックします。

[開始]を選択すると、SQL Server Browser が起動し、TCP/IP が有効になります。

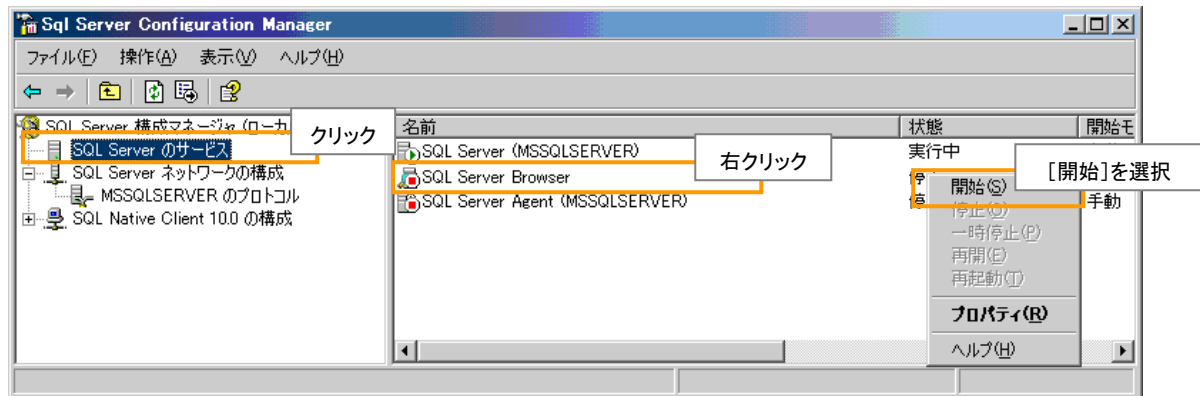


図 2-5 SQL Server Browser の起動

2.7. SQL Server の再起動

[SQL Server 2008 のサービス]-[SQL Server (MSSQLSERVER)]を右クリックします。

[再起動]を選択すると、SQL Server が再起動し、TCP/IP が有効になります。

④ TCP/IP が有効になっている場合は、本手順以降の操作は不要です。

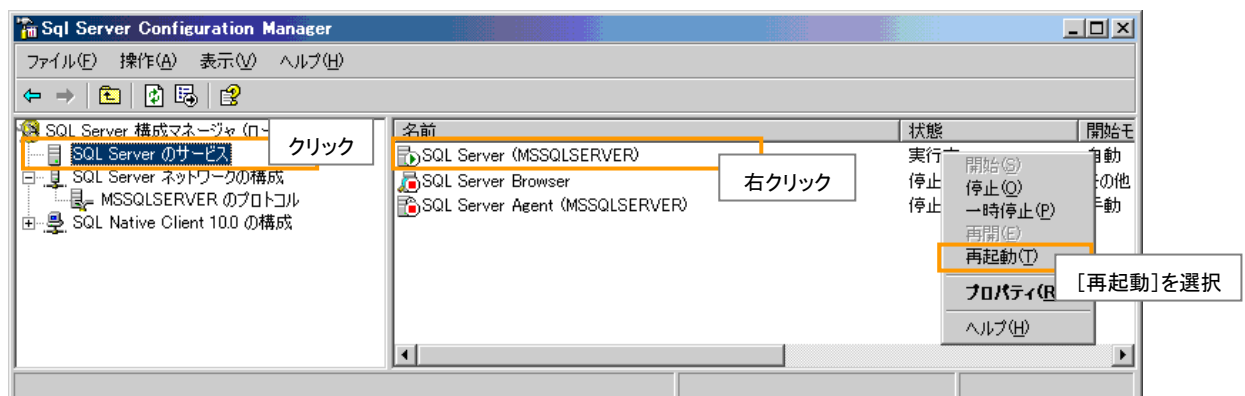


図 2-6 SQL Server の再起動

再起動が完了したら、[SQL Server 構成マネージャ]を終了させます。

以上で SQL Server 2008 の設定は終了です。

TimeTracker FX セットアップガイドをご参照いただき、TimeTracker FX のインストールおよびデータベースの作成を行ってください。

以上 ■